

令和7年度 舞戸小学校 森林体験学習

令和7年9月9日、鱈ヶ沢町矢倉山国有林において、鱈ヶ沢町立舞戸小学校の児童4年生29名を対象にした森林教室を開催しました。この体験学習は、森林にふれあい、普段あまり意識しない植物の種類の違いなどの理解を深めることにより、森林・林業への関心を高めてもらうため、津軽森林管理署と津軽白神生態系保全センターの共催で平成27年から始まり、今年で11年目になります。

当日は、スッキリしない曇り空で、少し涼しく感じられるくらいでしたが、子どもたちは元気いっぱい。少し足が痛いと言いながらも林道をグングン進んでいき、あっという間に森の中に到着しました。

除伐体験では、「ノコギリは引く時に力を入れるんだよ」という職員のアドバイスを参考に、子どもたちは、額に汗をにじませながら夢中になってノコギリを挽いていました。「手が疲れた」「半分からなかなか刃が入っていかない」と悪戦苦闘しながらも伐倒完了。「きれいにまっすぐ伐ることができてうれしかった」と清々しい表情を浮かべていました。



森の植物探しでは、子どもたちは、「トチノキだ」「スギもある」と立て続けに葉っぱを見つけて興奮気味。植物の写真が載ったパネルに見つけた証の赤い丸をつけている姿は、どこか誇らしげでした。「イタヤカエデとハウチワカエデ、ヤマモミジが似ている」と見分けが難しい植物を熱心に観察して、答えを職員に伝える。正解のひと声に歓声をあげて喜び合う子どもたち。気がつくと、パネルの植物にはすべて赤い丸がついていました。「知らない葉っぱがあって楽しかった。」「むずかしかったけど全部見つけてうれしかった」と弾ける笑顔を見せてくれました。



白神山地は原生的なブナ天然林で豊富な動物が生息していること、クロモジは高級な爪楊枝に使われていることなども職員から教わり、子どもたちは、地元の森林や木材利用についての知識を深めていました。

今回の体験学習を通じて、子どもたちは、木の感触やノコギリで木を伐ることの大変さ、森には様々な植物がありそれぞれに個性があることを楽しみながら学んでくれたようです。「森の中で楽しい」「ゲームとは違ったおもしろさがある」そう感じてくれたらうれしいです。

子どもたちがより楽しんで、森林や林業に興味を持ってもらえるように、これからもバージョンアップを重ねて、森林体験学習を続けていきたいです。

津軽森林管理署 森林情報管理官 橋本敏之